

# 年頭所感

常任理事 運営幹事会 代表幹事 **伊藤 英明**  
(三菱電機株式会社 ビル事業部 副事業部長)



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には日頃より当協会の活動へのご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私ごとですが2年前に本協会の理事に就任させていただき、そして今年度より運営幹事会の代表幹事という大役を担い、会員及び事務局の皆様の絶大なるご支援のもと、この半年間を無事に勤めることができました。今年も引き続き皆様のお力添えをいただきながら、協会活動や幹事会運営に尽力する所存です。ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、昨年の出来事を振り返ってみますと、地球温暖化に起因すると言われている異常気象による多くの自然災害が思い出されます。1月の半ばにあった各地での大雪災害は、都心で15時間も電車がストップしました。夏には日本に限らず世界的な猛暑で、ついに東京でも40℃超えの記録更新と、それに連鎖するがごとく各地での大豪雨による災害が多発しました。西日本で死者200名の洪水被害や、毎週の大規模台風の上陸の中で、関西直撃21号による関西空港の閉鎖などが上げられます。またさらに輪をかけて今年は大きな地震災害もあり、6月の大阪北部地震（震度6弱）や、9月の北海道胆振東部地震による大停電など、今までの常識等を超えるような想定外の災害や出来事が多くありました。この先の安心を確保するには、どこまで備えるべきか、見直すべきかの基準がいろいろな場面や場所で議論されるようになってきました。

一方犯罪情勢に関しては、窃盗などの刑法犯の認知件数は、街中の防犯対策などにより平成14年をピークに年々減少している状況ですが、振り込め詐欺や児童虐待、ストーカー犯罪といった事案は未だに多く、それを検知、防止できる効果的な仕組みや設備が必要といわれています。また昨年の1月に起きたビットコイン（仮想通貨）からの580億円の流出窃盗事件や、各種サイバー攻撃やデータ改ざん事件にあるように、この先のIoT社会の基盤となるネットワーク（サイバー）の世界での脅威や犯罪事例を多く目にするようになりました。我々が担当する防犯設備やシステムの範囲も、ネットワーク越しの眼に見えぬ犯罪者と対峙すべく知識やノウハウが必要となってきています。

そんな中、皆様とともに平成最後となる新たな年（平成31年）を迎えることができ、心より喜ばしく思います。

皆様の平成30年間はどんな時代でしたか。本協会も平成とともに歩み成長してまいりました。入会会社・団体様は270以上、養成・認定する防犯設備士も2万8千人、また優良防犯認定（RBSS）機器も累積600台近くになりました。昨年は防犯設備士事業25周年、防犯設備士養成講習・資格認定試験第100回目という節目の行事も行い、今年も3月にRBSS事業10周年記念行事を行う予定で、平成から次なる時代に向けて、協会としての事業継続更なる発展を目指し、事務局ならびに幹事メンバーで頑張っていきたいと思います。

ところで、新しい元号は何になると思いますか。今年の4月には発表されるとのことですが、個人的には「安」の文字が入ると予想しております。安心、安全の「安」です。過去の元号に使われたケースも17回ほどあり、江戸時代末期の「安政」が最後のようです。この時代、自然災害や高度犯罪やテロ戦争等の脅威は更に増してくる中で、我々国民の願いは、やはり安全でかつ安心な国やくらしで、まさに本協会の目標にも通じます。「安」の元号になることを期待しております。

今年も、5月には新天皇の即位・新元号の発足に伴う多くの関連行事、6月には大阪で主要20カ国（G20）の首脳会議、9月から11月にかけてラグビーワールドカップ2019の開催があります。また来年（2020年）には、東京オリンピック・パラリンピックが開かれ、世界の人々が集まり注目するイベントが目白押しです。一方で、それに伴う外国人のインバウンド需要や、外国人労働者の受け入れ拡大に向けた入管難民法の改正により、社会風紀の乱れやテロ脅威の増大などが懸念されています。

以上のような世の中の大きな変化の中で、当協会では防犯設備士＆総合防犯設備士の養成・認定制度、RBSS認定制度、各分野別の委員会活動を中心に、より安全で安心な社会「安」を目指していきます。その活動に向け、会員の皆様のご更なるご支援、ご協力をお願いするとともに、皆様のご多幸、ご健勝ならびに関係団体及び関係企業様の益々のご発展を祈念して、念頭の挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。